

## 令和 6 年度 自己評価について

### 1. 経営方針

幼稚園の 3 年間は人格形成の基礎を培う大切な時期である。各学年 1 クラスの落ち着いた環境の中で心を躍らせ、好奇心旺盛にチャレンジし、自分の思いや考えをのびのびと表現できる子どもの育成に努める。そのために、以下の 3 点を経営方針とする。

- ① 子どもを真ん中に置いた教育
- ② 白藤学園の強みを生かした園づくり
- ③ 健康で働きやすい職場づくり

### 2. 本園の教育目標

本園はこれまで「あしたがまちどおしくなる幼稚園」を目標に、子どもの心に寄り添い、豊かな感性と伸び伸びと表現する力を引き出し、意欲や主体性を高める保育の実践に努めてきた。その中で、昨年度白藤学園が幼稚園、こども園、保育園の 3 園を有する向け、改めて白藤学園の目指す幼児教育について議論を行った。本園では、これまで取り組んできた「あしたがまちどおしくなる幼稚園」は本園の教育の土台としながら、教育理念や教育目標等については 3 園共通のものとし、以下の通り取り組んでいくこととした。

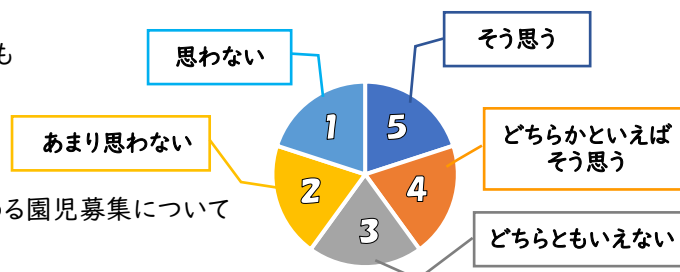
〔教育・保育理念〕 たっぷり遊び じっくり学び ともにたかめあう

〔教育・保育目標〕 かけがえのない子ども時代を、人・もの・こととの関りを通して豊かに生きる

〔目指す子ども像〕 主体的に生き生きと遊ぶ子ども  
ねばり強く取り組む子ども  
自分も友だちも大切にする子ども

### 3. 経営方針等に対する自己評価

上記の経営方針、及び幼稚園経営の根幹にかかわる園児募集について  
5 段階評価で自己評価を行った。



評価項目① 「子どもを真ん中においた教育（子どもの主体性を大切にした教育）」

評価： A

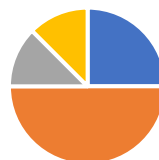
#### 〔職員による自己評価〕

園の取組が「子どもの主体性」を育てているか



- ・ 日々の取組や行事等の活動が子どもの主体性を育てていると感じている。







日常的に「子どもの主体性」を視点にした会話がなされているか



- ・ すべての職員のなかで意識化されているわけではないが、意識の高まりを感じる。

#### 〔取組状況及び考察〕

- ・ 今年度は「異年齢での活動」を普段の活動のなかでも意図的に取り入れた。その集大成となる取組が運動会であり、お誕生日会であった。
- ・ 職員の中にも「振り返りなどの時間を通して子ども同士がそれぞれの遊びに興味をもったり関わりをもったり、次を楽しみにできるよう考えている。」「指導型の保育ではなくなってきたことは大きな変化であると思う。」といった意見があり「子どもの主体性」を大切にしていこうという思いが強まっている。
- ・ 保護者アンケートにおいても、96%の肯定的な評価をいただいた。

評価項目②「白藤学園の強みを生かした園づくり」	評価：A-
<p>[職員による自己評価]</p> <div data-bbox="199 257 798 481"> <p><u>高校や学院と連携ができていますか</u></p>  <ul style="list-style-type: none"> <li>・高校、学院との連携は生徒・学生との交流や施設活用、行事やカリキュラム参加と年々充実・深化してきている。</li> </ul> </div> <div data-bbox="821 257 1428 481"> <p><u>教育に園バスの活用ができていますか</u></p>  <ul style="list-style-type: none"> <li>・園バスがあるからこそ「森の教室」や「田畑での活動」といった普段できない体験活動ができています。</li> </ul> </div> <p>[取組状況及び考察]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保育学院の観察実習は2年目を迎え、内容や本園との連携も密になってきている。</li> <li>・高校保育コースの生徒とは毎月交流を実施しているが、今年度は年長児がオリンピックに関連して「バスケットをしたい」から発展し、高校のバスケット部との交流を行った。</li> <li>・行事の交流に終わらずに、普段の活動の中での交流が充実していけばと考えている。</li> <li>・こども園や保育園との連携については十分ではないが、年長児を中心に大宮祭りに参加するなどの交流の時間をつくらたり教育方針のすり合わせをしたりするなど、連携の土壌が整いつつある</li> <li>・園バスを保有していることも強みの一つである。今年度は園バスを活用した園外活動の充実を図った。</li> </ul>	
評価項目③「健康で働きやすい職場づくり」	評価：C
<p>[職員による自己評価]</p> <div data-bbox="199 965 798 1189"> <p><u>勤務時間内に仕事を終え、帰宅できているか</u></p>  <ul style="list-style-type: none"> <li>・課題が残る。</li> <li>・職員間が協力して園業務をこなし、時間内に終わらせる努力をすることが大切だ。</li> </ul> </div> <div data-bbox="821 965 1428 1189"> <p><u>意思の疎通があり働きやすい職場であるか</u></p>  <ul style="list-style-type: none"> <li>・職員間の雰囲気は良好で意思の疎通はとれている。</li> </ul> </div> <p>[取組状況及び考察]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・勤務時間内に業務を行うことができるような負担が大きかったコードモンでの配信回数を見直した。</li> <li>・職員間の意思の疎通が図れるよう、終礼では自由な発言ができるようにしている。</li> <li>・延長預かり後は速やかに退勤できるよう声替えをしているが、勤務時間内に仕事を終えて退勤している現状にない。</li> <li>・通常の保育時間が9:00～15:00であること、行事等が多いといったことや経験年数の浅さによる仕事の遅延もあるが、仕事の優先順位を考え、見通しをもって業務を進めていく必要がある</li> </ul>	
評価項目④「園児募集」	評価：B
<p>[職員による自己評価]</p> <div data-bbox="199 1626 798 1850"> <p><u>「ここすきひろば」が園児募集に効果があったか</u></p>  <ul style="list-style-type: none"> <li>・1歳児保育に9月以降10名の入級があったが、その半数は「ここすきひろば」からの紹介である。</li> </ul> </div> <div data-bbox="821 1626 1428 1850"> <p><u>1歳児プレ保育や2歳児・満3歳児保育が園児募集に効果があったか</u></p>  <ul style="list-style-type: none"> <li>・1歳児プレ保育参加者の8割～9割が2歳児・満3歳児クラスに入級している。</li> </ul> </div> <p>[取組状況及び考察]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・職員一人ひとりが自分事としてとらえて関わっている。</li> <li>・年度途中から実施した2歳児・満3歳児クラスは最終15名まで増加し、また1歳児未就園児クラスは登録者が19名となった。</li> </ul>	

- ・ R6 年 3 月に開設した「しらふじ ここすきひろば」を起点に本園に興味を持って下さる保護者も多く、入園説明会参加者の 44%が「ここすきひろば」から情報を得ている。
- ・ 園見学に来られた方がほとんどの方がホームページを見ていることもあり、HP は頻繁に更新して幼稚園の様子を発信するようにしている。

総合評価: B+

〔考察〕

- ・ 評価項目①、②の教育内容は一定の成果があり、保護者にも本園の特色や良さが浸透しつつある（保護者アンケートより）。
- ・ こうした取り組みが園児募集にもプラスの影響を与え、十分ではないが新入園児の数は増えつつある。
- ・ 一方、評価項目③「健康で働きやすい職場」については課題が残った。

※ 評価(A…十分成果があった / B…成果があった / C…あまり成果がなかった / D…成果がなかった)

#### 4. 現状認識と今後の取組について

##### ① 「子どもを真ん中においた教育(子どもの主体性を大切にした教育)」について

- ・ 教育の質の向上(子どもの主体性を大切にした教育の実践)については日々の終礼のなかでも具体的な事例をもとに議論する雰囲気醸成されており、職員全員が意識して取り組んでいる。子ども自身も、自分で考え・遊ぶことが楽しいと感じている。
- ・ 子ども主体の保育については園全体として取り組み始めたところである。今年度は公開保育を実施できなかったが、次年度以降は保育を公開し、本園の教育を深めていきたい。

##### ② 「白藤学園の強みを生かした園づくり」について

- ・ 今年度は春秋の園バスを使ったハイキングや田植え・稲刈り体験、キャンプフィールドを活用した「森の教室」など、園の特色となる「体験活動」の充実を図った。
- ・ 保育学院や高校との連携だけでなく、おおみや保育園やおおみやこども園との連携も深めていく必要がある。園バス等を活用した取り組みは継続・充実させていきたい。

##### ③ 「健康で働きやすい職場づくり」について

- ・ 超過勤務の解消については課題が残った。
- ・ 職員の退勤時刻が遅くならないよう、働き方改革を進めていく必要がある。

##### ④ 「園児募集」について

- ・ 未就園児を対象にした事業を導入することで、3 年間続いていた新入園時の減少には一定の歯止めがかかったが少子化に適切に対応して新入園児確保ができていない状況にはない。
- ・ 新入園児の減少に歯止めがかかったが、定員割れが続いている状況に変わりはない。魅力ある幼稚園として保護者に選ばれる園を目指すとともに、0~2 歳児を持つ子育て層へのアプローチを強化していく必要がある。